

世界でも ここでしか採れない太古の海泥「タナクラクレイ」の新聞報道



■毎日新聞 1995年(平成7年)12月4日

【夢幻探索】

■肌もスベスベ 化粧品にも利用

“魔法の土”の効用に目を着けた商品化も進んでいる。(中略) 化粧品原料メーカー、大日本化成(本社・大阪)の井谷衛専務は「微量元素は肌をしっとり滑らかにするので美容に最適」と指摘。「これまで美容効果がある土は、世界でも英国沖の北海でしか採れないとされていた。これほど多種類の微量元素を含む土が日本にあったとは驚きだ」と話す。消炎や肌の保湿効果は証明済みで、厚生省の認可も受けた。すでにパックやシャンプーに利用され、大手化粧品メーカーも“魔法の土”を入れた製品を近く売り出す予定だという。



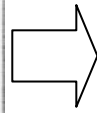
■毎日新聞 1999年(平成11年)8月12日

「理想の泥」追う化学業界

先端技術でヒット商品狙う

■「安全性」に注目

コーセーが、福島県棚倉町の山中の断層に含まれていた数千万年前の海の泥に注目したのは、四年前のことだ。古代エジプトのクレオパトラの時代から「泥は肌にいい」と言われ、同社は「理想の泥」を追い求めて、中東の死海の泥などで実験を重ねていた。研究部隊は棚倉町に堆積していたプランクトンや海藻類がもたらす栄養分の豊富さに、すっかり魅せられてしまった。(後略)



■産経新聞 1999年(平成11年)11月18日

泥を探して三千里

■化粧品各社“美肌の素”に

泥を使った化粧品が、女性の間で、ちょっとしたブームになっている。古代エジプトの時代から、「肌に良い」とされてきた泥。最近も、消費者の自然志向の高まりとともに、新たなヒット商品に結びつけようと化粧品メーカーが、世界中の美しくなる泥を探し始めている。(中略) ミネラル分が多いことでは中東死海やフランスのブルターニュ地方の泥が一般的だった。が、最近、注目されているのが「国産」。コーセーが新製品に採用したのは、福島県棚倉町の山中に含まれていた数千年前の海の泥だ。

化粧品原料を専門に扱うメーカーから持ち込まれた棚倉町の泥はプランクトンや海藻類からの栄養分が豊富で、純度が高いという。(後略)

